常磐毎日新聞

日刊

九月二十八日　夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料 普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
福島縣 平・長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京 四〇二一〇番

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

四五の兩日公會堂を
市民に公開
場内を飾る華道の粹
平安會からも文獻出陳
殊に見せたい夜間照明

平市公會堂は來月三日竣工式を擧げると共に此の市民協力の結晶に成る大殿堂を一般市民に四、五の兩日公開し大ホールを始め各附屬室全部を開放、自由縱覽させる事になつたが此の機會に平市の沿革を知る一如として安藤公が宰領した平藩時代の文獻數點を平安會の出陳に依つて陳列されると同時に場内の美化裝飾として市内華道の代表師匠とも云ふべき一丁目岡田草悦、四丁目須藤まつの、南町深見米吉、五丁目吉田よね、新町正木てる、十五丁目高野いく、六丁目田中殖臣、南町横山晴雄各社中の丹精こめた生花、投入、花盛等百花撩亂として咲き匂ひ恰も春の野を行く興趣を覺えしめる外高橋光春女史門下の盆景等も一般と光彩を添える筈であるが前記兩日の公開日はマツダランプ照明學校の設計に依り日東商會が工事した場内の照明設備が如何にわれ等の公會堂を明朗化するかを知らしめる爲め特に夜間八時迄一般縱覽を歡迎するといふ

平郵便局が
臨時に出張
竣工式の當日

平郵便局では公會堂の竣工式が擧行される十月三日公會堂内に臨時出張所を開設來往客の便益を圖ることになつたが時間は午前十時から午後四時迄で普通々常郵便物引受、郵便切手類の賣捌、風景入スタンプ押捺の事務を取扱ふ筈

武勳薫る佐藤伍長散華
隊長の背後に
「忍び寄る敵兵」
グサリと突刺した
決死九勇士の一人

本郡江名町字西大澤出身兩角部隊伍長佐藤寅雄(二五)君は去る七日富金山の激戰で護國の人柱となり壯烈な戰死を遂げた旨原隊より發表されたが同君はその前蒙城攻略決死隊九勇士の一人として前面の敵兵に向つて肉彈戰を展開した際高橋代理隊長の背後に迫つて狙擊せんとする一人の敵兵を發見、直ちに一突きして難を免れしめた武勳をたてその名か陣中に鳴り響いて居た、漢口を目指して進發に際し實家に

今度は恐らく生きては歸れないと思ふ、充分御國の爲めに働きたい覺悟で居るが何か此の世の名殘りに甘い物でも腹一ッ杯に食べたい

との書信を寄せたので實家では去る廿二日羊羹やドロップ等を送つたのと行き違ひに戰死の報に接したのである

同君は滿洲事變にも出征し勳八等を授けられ實家には父亡く母ツネ(五四)さん、兄武(二八)さん、妹きん(一七)さん、弟正次(一二)さんの四人暮しで農を營んで居る

軍事扶助者
平市懇談會

平市及び石城郡下の軍事被扶助者に對する懇談會は十月十一日午前九時から平第三校講堂に開かれるが出席者は

軍事扶助家族、市町村長、各係吏員、相談所員、方面委員、分會長等で

午前中は遺家族の仕事の狀況を聽取午後は厚生省から講師を招き講演會を開く筈である

籠球の豫選

平市及び石城教育部會では十一月十三日郡山市に開催される縣主催第三回縣下小學校兒童バスケット選手權大會の豫選を近く開くことになり目下準備を進めてゐるが各小學校も榮冠を目ざし早くも練習を開始した

銀紙を献納

平市內大町烏越守君は今二十八日お父さんの吸つたバットの銀紙二百三十匁を賣つて國防費にして下さいと市役所に献納した

箕輪眞綿會

永戸村では目下川部村の加茂マチ子さんを講師として同村上永井共同作業場で眞綿の講習會を開いてゐるが箕輪村でも十月五日から十日間開く筈

葉煙草
高久村協議

高久村の葉煙草耕作協議會及び農事講演會は十月五日午前九時から同村小學校に開かれる

縣社氏神社頭に
櫻花「パッと開らく」
漢口戰を控えて
有難しこの瑞祥

平市地方は最近秋涼が增して朝夕は一段と薄ら寒さを覺える樣になり川前の紅葉も見頃が近づかうと云ふのに是れはどうした陽氣の加減か縣社子鍬倉神社々頭の櫻樹が一時にパッと咲いて人の眼を驚かして居る皇軍の武運長久を祈願する參拜者が引きもきらぬ折柄である爲め是れを見て漢口戰大勝の瑞祥となし氏神樣の目出度い前じらせと許り全市を擧げて大評判である

愛谷堰の
水害復舊
縣廳に陳情

平市外四ケ村の愛谷堰は去る六月三十日の洪水で赤井、平窪間の橋の一部が欠潰した上去る一日の颱風の餘波を受けて遂に一部が折れ落ち交通不能に陷つたので同組合關係者及び石城郡選出縣議、水利組合員等はこの程打合會を開いたが今二十八日から二日間縣で開催される四省聯合主催講習會に各縣議町村長連が出席するのを機に明二十九日坂井經濟部長に面接速かに復舊方を陳情することになつた

熱球カッ飛ぶ
銃後の鐵腕
第五回中等學校教員
野球大會 開く

☒日時 十月二日午前八時
☒球場 磐城中學校々庭
☒參加 平市內各中等學校

主催 常磐毎日新聞社

小名濱支局通信
經濟更生村の
渡邊村を訪ふ
支局長 小野務平

飽まで地味に終始する

永山村長の談話に依つても其更生の意氣が躍動して居る事が判然たる線を現して居る事を察知するに難くない、さもあるべし本村の納稅成績の如き實に各町村の痛扱ひをして居る町村稅が渡邊村に來ては九十九パーセントを示して居る事を聞いては經濟更生村としての直ちに範儀を示し得た村として永山村長以下吏員各位の其努力と奮鬪に敬意を表するものである

殊に特記すべき一事は山漁村の通弊として學校訓導の奉給は未拂高の多額を以て收入役の手腕に在りと位までに考へた時代さへあつた、義務教育費の國庫補助金交付を受けながら之を一般會計歲入から支拂を停滯して職員の生活さへ脅威を與ふ事が往々平氣で終始した時代は兎も角も今以て其踏襲癖のある山村あるに對して、渡邊村は毎月支給を受くる二十一日には何時も受領し得るので其點の憂慮は絶對にないと云ふ折紙を附されて居るに見ても、その如何に納稅義務の重大であるかに高尚なる鼓吹を行はれてあるかを察知する事が出來る

元來永山村長は故人となつた嚴父定治郎翁が村長としての治績は設し難いものあるに懲して一家風としてどうしても一村處理の上に傳統的に村治に盡瘁せねばならぬ緣故を有するものと見てよからうと思ふ、此の名村長の治下に何一つ不足はないが唯記者の眼底に浮んだ一事のある事である、即ち渡邊村は純農村で田畑山林は財産中の尤なるものである事は言を俟たぬ、此の財産の擁護の上に缺く可らざるものは釜戸川の改修工事であると思ふ

蜿蜒三里水源を上遠野山奥に發し上中釜戸松小屋、田部洞、堀の內泉、瀧尻、下川を經て藤原川に合流する灌漑と排水とに使命を持つ縣支辨河川をしての河流であるが松小屋、田部洞堀の上の五大字は毎年降雨期に臨んで一度若くは二度三度水害の被らない年は殆どない、殊に字田部國道を横切つて居る地點字江添の如き半圓形を劃した曲折の爲に其邊の耕地は殆ど水害の爲めに幾十年かを不毛同樣の荒蕪地として顧みられざる狀況に置かれて居る、これに對して永山村長は役場より僅かの距離(五六丁か)の地點に深き關心をかけざるが如きに見受けたのであるが、これは永山村長としては千慮に一矢で一大痛恨事を察知したのである

勿論釜戸川の改修問題は提唱されて居る事と思ふが村役場脚下に於て此の慘狀を默過する事は決して名村長治下に賞むべきものでない事を特に永山村長の一考を寬めないと思ふが故に苦言を呈した次第である

（未完）

魚鱗躍る
小名濱魚市場で
鰹の外に大小魚大魚

小名濱町營魚場は鰹船が秋刀魚漁に轉向して出漁中であるのでさなきだに不漁を喞つ昨今これはまた突然鰹船入港あつて三萬尾水揚げした外小鯛五十貫、稻田二十貫ソーダンボウ十五貫、咽黒二十五貫、ヒラメ三十五貫、雜三十貫、この水揚金額二萬三千圓を突破する有樣で沈滯に傾いた濱の活氣は俄然潑溂さを示して來た

小名濱に
一偉觀
水揚場竣工

水揚三百萬圓を目指す小名濱港では既報の如く八萬餘圓を投じ町營魚市場代行磐城水產工業株式會社事務所と六百四十坪の水揚場を建設中であつたがこの程見事完成躍進小名濱港に一偉觀を呈してゐる

これによつて從來廻航船の水揚げが思ふやうでなかつた同港は自由に大小の漁船を吞吐することが出來秋刀魚、鰯、その他豊漁期に入つて遺憾なく市場としての使命能率を發揮し得るので同港は一段と活氣を呈するものとみられてゐる

縣下各小學校の
体育主任が爭覇
磐中に開く体育大會

本縣體育協會主催の第四回體育大會は十一月六日磐中グラウンドに開催されることになつたが縣下各小學校の體育主任約二百名が參加覇を爭ふ筈で盛會を豫想される、種目は陸上競技、柔道、劍道である

一人息子

山形縣東置賜郡小松町遠藤卯右衛門さんは長男の新吉(二〇)が去月二十九日家出、內郷村宮澤鈴木勝三郎氏方と身を寄せ炭礦で働いてゐたが最近姿を晦ましたので一人息子だし家も困るから搜して貰へないと今二十八日平署に願出た

四倉署訓示

四倉署ではこの程管內の各旅館、料理店、藝妓屋營業者及び藝妓を署內演武場に招致長期戰下に於ける銃後國民の覺悟を新たにした

出征家族の
梨出荷手傳

好間村上野部落では一戶一名宛出勳梨を栽培してゐる出征家族の梨出荷手傳ひをなし感激せしめてゐる

第二區競技

石城教育部會第二區湯本町方部小學校兒童の陸上競技大會は明後三十日午前九時から湯本小學校に開かれる

出羽祭禮

市內大室村社出羽神社の祭典は明二十九日執行されるが武運長久の祈願を行ふ筈

平商父兄會長

平商父兄會は來る十月一日午後一時から前中野會長逝去に伴ふ後任會長選

內郷村助役

內郷村では助役の金成爲吉氏が近く任期滿了となるので二十六日村會を開き再選と決定した

東日本丸から
初漁の吉報
五萬尾內外の秋刀魚
漁業組合狂喜

小名濱港の誇り遠洋漁業の先驅を承る東日本丸は既報の通り二十四日午前一時出帆海上無事漁場目指して出漁中第一報は既報の通り魚群未だ漁場に向つて進行中との無電に依つて五百哩の沖合な事を知つたが二十八日朝五萬尾內外の初漁を占め更に秋刀魚群の去來するあり漁獲に活躍中との第二報が小名濱漁業組合に入り水野組合長初め幹部一同引續き吉報を鶴首待つて居る

古河慰靈祭

好間村古河炭礦々業所では二十五日同礦の殉難者並に無緣佛の慰靈祭を執行した

エロ坊主猶豫

既報住居侵入罪で富澤檢事から懲役三ケ月を求刑されたエロ坊主双葉郡長塚村一刀仙鳳(三〇)の判決公判は今二十八日午前十時から平區に開廷されたが改悛の情顯著なるものありとて淺野判事から懲役三ケ月但し執行猶豫三年間といふ寬大な判決を言渡された

暴行者服罪

既報錢湯歸へりの女を襲ひ暴行を働いた江名町の漁夫畔田芳雄(二八)に係る「暴行致傷事件」の公判は二十七日平支部に開廷中谷裁判長から富澤檢事の求刑通り懲役一年六ケ月の判決を即決で言渡されたが直ちに上訴權を拋棄服罪した

平市人事

回出生

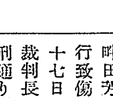
△窯ノ內字高田五太田德男氏五男爲彌君
△搔槌小路一八廣澤富三郎氏二男茂君
△手掴町一一四三村增吉氏二男晃君
△鎌田町三五鹽田勝義氏二男秀夫君

回婚姻

△千葉縣香取郡佐原町佐原六四六玉崎淸吉氏(四〇)五丁目一九里見トメさん(四七)

回死亡

△鷹匠町八[illegible]なみさん夫石井吉之(五五)氏
△舊城跡三〇竹和ヨシノさん同居者上原嘉作(七六)氏
△長橋町二六 三郎氏三女綠川幸子(一ツ)さん
△中平窪字勝見澤四四信一氏母新妻サダ(六四)さん
△新川町二一 美津江さん從妹渡邊イミ子(二ツ)さん
△三丁目一八 精治氏二男猪狩英雄(三ツ)君



今晩の部

▽後六、〇〇 (子供の時間)動物物語「爪足のムスタング馬」大阪童話敎育研究會
▽後六、二五 講演「大楠公の武人の一面」柳川平助
▽後七、三〇 特別講演「國民健康保險について」淸水玄
▽後八、〇〇 新講談「堀部彌兵衛」大發一郎
▲後八、五五 時局一夕話「歌舞伎俳優として」松本幸四郎

明日の部

▽後八、〇〇 獨唱「秋の月」外 四家文子
▽後八、四〇 箏、尺八合奏「夜々の星」佐藤正和
▽後九、〇〇 浪花節連夜二題「大石瀨左衛門」富士月子

外科內臟外科
X光線科 院長 安齋徹
─新設─
產婦人科 醫學士 黑澤廣
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四七五番

根本產婦人科醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
（病室完備）
（入院隨時）
【電話四三番】

愛憎三度笠
吉川延作
瀧秋方畫

……(81)……

立話 二

道行く人に、この、綺麗な二人の立話を、聞のさゝやきとも睨むのか、チロリと變な目付きで、睨んで過ぎる人もすくなくない。

「旦那はん、あんた、あてに、嘘ついてびつくりさせはるのに違ひおへんわ」

松千代は、やゝはにかみながら、一寸しなを作つてすねて見せた長い袂がヒラリと風をあをつて靡いた。

「俺は、嘘はいはない」

「いえ、そんな筈におへんどすわ」

「困つたなア」

と、大助が、ふと瞳を擦れちがふ女を振りかへつた。同時に

「いゝところを拜見してよ」

と、おしんである。

大助は、愕然とした。松千代も、見知り越しの間と見えて

「まあ、姐ちやん」

と、驚かしがる。

「おい、そんなんぢやないのだ」

突差に大助は辯解する。

「そんなに、云ひわけなさちないでも、ようござんすよ」

おしんは、反抗的に、チクリと一本、皮肉な微笑を殘したまゝ二人の傍をすりぬけて、ズンズン群衆の內に姿を消してしまつた。

大助は、急に淋しくなつた。

「さらば」

と、侍の言葉のまゝに、松千代の傍を離れたが彼女は放さなかつた。

「待つてほしいわ」

と、袂をとらへてうごかさない。

「いや、俺は、こんな處に立つて居るのはいやなんだ」

「それではそこまで……」

と、松千代は、大助を引きづるやうに、祇園神社の、石段の前まで來た。

大助はおしんの、反抗的な、蒼白い顏を思ひ出した。

あの女、今度は俺に誤解を持つたな、と感じたのである。道路でなくば引きとめて……と思つたが、さすがに、通行人の手前もあり、なんとなく松千代の眼の前で、さうした態度をとるのが、氣にとがめて、躊躇されたのであつた。

「おゝ、こゝに居るな」

と、殷々とした武士の聲だ。

大助は愕然とした、さうして、早くも、腰刀に手をかけて相手の武士を凝つと見る。

「その方は、里見大助といはうかな」

と、鋭く叫ぶ。

「いかにも、里見大助ぢや」

「さうか、拙者の名は……稲浪源十郎、知己のために、仇を討つ」

昂然として、しかも[illegible]な、山の如き、興味のある聲が響いた。

と、大助が云つた時

「まあ、兄さま」

と、松千代が、源十郎の腕に縋り寄つて、とりすがつた。

「おまへは?」

突然、腕にとりすがられた源十郎は、美しい舞妓姿の松千代を見下して舌打ちした。

「兄さん!」

彼女は叫んだ。

「何! 兄さん! 馬鹿、おまへのやうな妹を持つた覺えはないわい」

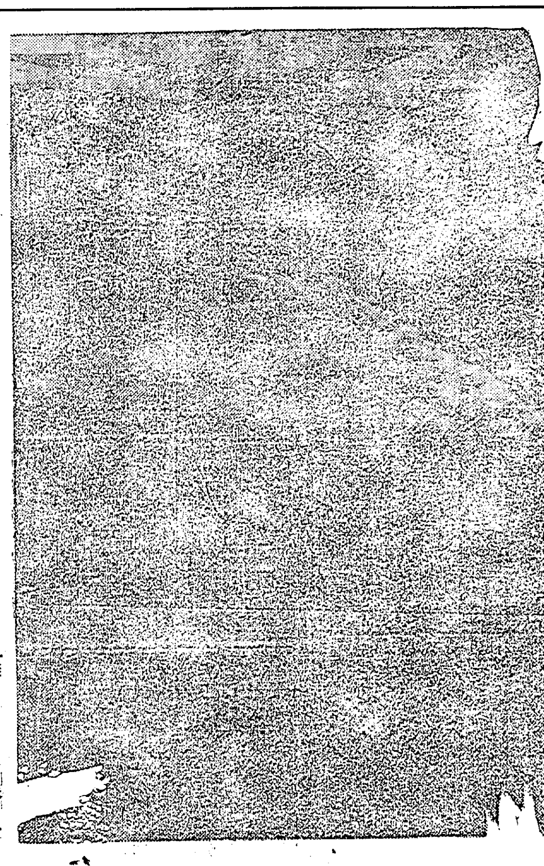
稲浪源十郎は、眼の下にうるさく縋くの松千代の頭を、この場合、さもうるさげに吐き出すやうな言葉であつた。

「まあ、兄さん、そんな薄情なことを……」

彼女は泣き出してしまつた。

毎日のメモ

電燈の點滅　電燈は球をゆるめて消す人もありますが、あれは間違ひで、感電・火傷の恐れがあり、斷たれる時に根元のソケツトの中にさし込んであるコードに火花を生じ球を損じますスヰツチで消すのが安全です



綺麗に咲かせる 菊つくりの秘訣
種類によつて異ふ 開花前の手入れ

九月の聲を聽くといよいよ菊のシーズンだこれから菊栽培家の手腕を發揮する大切な時期である、今開花前に於ける手入れについて其のコツを述べる事にしよう先づ肥料と

（灌）……水であるがこれは種類によつて違ふものである、一般に大菊は八月下旬頃まで乾燥し肥料を止めておかないと花が亂れたり菊の端が腐敗するやうなことになり勝ちである厚物の如きは花前に肥料が殘つてゐたり或は少し位施し過ぎたと思つても別に差支へはないが管物細物にあつては確に不結果になり勝ちである。然るに中菊であると九月十日頃迄乾燥肥料を與へた方がよい中菊なるものは所謂狂ひを出させるのが目的であるからこれは寧ろ

（肥）……料分の缺乏せぬやうにしなければならない、灌水は鉢の大小かわきの程度、或は肥料の効き工合によつて加減されるものであるが大體九月中旬頃迄は午前午後の二回とするがその後は一回で充分である、然し中菊のやうに輪數の多いものは大菊に一回施す時でも二回施すやうにした方がよい次に

（支）……柱は長く伸びた花莖の倒伏したり曲つたりするのを防ぐ意味で是非とも立てなければならない殊に九、十月の頃は風が強く吹きまた花蕾をつけるやうになれば上部が重くなるのでどうしても花莖が倒れるやうになる、支柱としては篠竹がよくその立て方もなるべく花莖の後にかくれて支柱の目立たぬやうにする、其の他あぶら蟲、しん喰蟲、スリップなどの

（害）……蟲や斑點病、黒斑病、銹病などの病氣があらはれ易いので何れも適當な處置をして害を未然に防ぐやうな心掛けなければならない。

タンスの取扱ひ方
かうすれば長持ちします

新しい買ひたての箪笥に手垢をつけたり、陽に直射させて黄色くしたりしたのは醜いもので、手入れの仕方や取扱ひ方で隨分その生命は違ひませう

場所は太陽のあたらない然しカラリと乾燥した場所へ水平に置く事です、片端が疊の縁に、片端が中央になつたりしますと、箪笥の重量で水平が得られないため新しい箪笥が歪んだり、抽出斗が出なくなつたり又扉が開かなかつたりする

それから抽出斗や開扉の中の衣類の出し入れは必ず眞正面に平均にすること、抽出斗を半分出したまゝで着物を出したり洋服箪笥の扉を開きかけにして中へ首を突き込んで中の抽出斗をガタガタさせたりするやうな不精は、第一に如何にも體裁が惡くそして女のだらしなさを現はして、また壽命を半減します

雨の多い時は品質のよいものでもギシギシときしみ或は表面に白く粉を撒いたやうになりますが、こんな時には抽出斗の横面へ極小量のローを引き、表面は乾布で強く拭きますと綺麗にとれますこの白い粉は最後の仕上げに使ふローが浮くのです、金具も手脂がついて汚くなりやすいものですから一週間に二三度位乾いた布巾で拭くことなど常に以上の注意を守れば美しく保つことが出來ます

手近なもので脂肪取り
自宅で出來ます

わざわざお金を出してお買ひ求めにならなくても脂肪取が手近なところにひそんでゐるのを御存知ですか――先づ皆さんの御不用の古い雜誌をお出し下さい、アートペーパーの綺麗な紙がありますね、あれを全部縦一寸五分、横一寸位の大きさに切ります。

◇……大きさも形も好みによつて花の形やハート形何でもお好きな様にお切りになりましたら一纒めの一分位のところへはりで切り取線のミシンをつけます。全部裏返しの上から畫用紙か何か厚手の紙（綴のない方）に重ねて揃へて其を表紙につけとぢて御覧なさい。

奥様方の大切なお買物の秘訣

調味料の經濟的な買ひ方

極小人數の家とか暑い頃で徹の心配のある時分はお醤油の瓶買ひもよろしう御座いますが、多人數の家は月々の使用量が各家庭によつて定まつてゐるのですから樽で求めておきますと、少くとも一升で、四、五錢の得があります。

酢、酒等の調味料を量り買ひする時は求める分量より容器の大きいものを持參するのが秘訣です。でないと、桝目が内輪になつて分の損をいたします。

カツプ、お皿類を買ふ場合

カツプやスプーンを買ふ場合、なるべく目盛のあるものか、或はこれに一杯が幾グラムとはつきり分量の定つたものを買ふ方が便利です使用する時、一々桝や計量器を用ひなくとも濟みますから、大變手數が省けます。

お鍋とか、お釜とか臺所道具に限りませんが、餘り粗惡なものは安くとも御損です。ニユームのお鍋なども、餘り薄いものは、直ぐに凹んだり穴があいたりいたします。

金額買ひより目方買ひ

或る奥様が、卵を買はうと一軒の店へ行つた相です。見ると普通物が六個で百匁二十錢と、一箇につき四錢の地玉子があつて、其他玉子が欲しいので『之れを目方賣りにしませんか』と言ふと『賣ります。』と言ふので『百匁いかほど』と尋ねると、矢張り二十錢だと言ふので、はからせると、丁度數も六個あつて、金額買ひですと四六の二十四錢のところが、目方買ひにすると普通と同値でしかも良い品が買へたと言ふ話があります。卵に限らず、お砂糖、味噌、鰹節等は大抵目方ですが、メリケン粉や鰹節は、十錢とか、一本とか小分けにして買ふ場合がありますが、これも目方買ひにした方が安く附きます。倘ほ心得て頂きたいのは、たとへ二十匁、三十匁でも、基本になる百匁の價を聞いてから買ふことが大切で、それでなければ、本當の値がわかりません

此の外、店へ買物に行つて目方をかける時大抵商家では奥の方に秤を引込めておきますから、家に計量器のない方は、一度目方を見せて買つてから買ふとよろしいのですが――とにかく、これからは益々科學萬能の世の中になりますから金錢で目方を換算する様な手數と無駄な頭の使ひ方をせぬ樣に主婦は考へて行きたいと思ひます。

煩はしい家庭より離れ尼僧生活をのぞむ

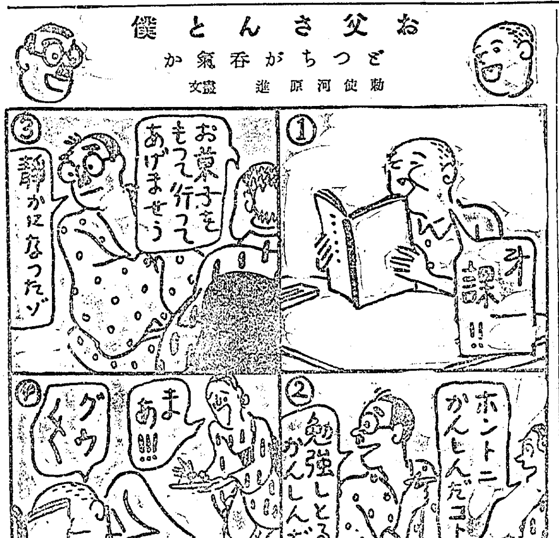
【問】今年二十一歳の女です、家族は父、繼母、弟、妹の六人です、父は人一倍厳格で子供達には決して優しい表情なんか見せたことは御座いません、又、私達の身を思ふ故でせうが、それはくやかましく物を申します、私共が人間でないように口汚くけなします。それも繼母あるためであらうと思ひます、従つて親子関係は温情のない常に嵐の吹きまくつてゐるような暮らしです、いまでは私のひがみもつよくなり、生きることそれ自體が罪のやうな氣がします、就職の困難な今日、淫らな道に陥るより一層尼僧生活に入り、すべてを許されたいとおもひます人として義務にそむく利己主義なことかと存じますが、如何なものでせうか、良き身の振り方佛門に入るに對しては絶對發言權のない私です、只東京に住む父の姉である伯母さま一人が頼りです　（丁子）

尼僧になるのは却々難かしい慎重に考へよ

【答】あなたとしては今餘程穩健に考へねばなりません、さういふところでの忍從は尊く、自分を磨くことでありますからぢつと耐えしのぶ一方、幼い弟妹の面倒を見て上げることが必要です。それにあなたは二十一歳といへばやがては結婚して新しい生活に入る身ですから、いつまでも今の生活を續けるといふわけでもない筈です。あなたの人生はこれからです、その貴重な將來の人生を現在の生活から全部絶望してしまふといふことは、どこまでもあやまりですけれども信仰生活に入るといふことは、いづれの場合にあつても結構なことですから、今の生活に耐える耐えないにかゝはらず、その道に志すことをねがはれていいでせう。たゞ『今の家庭生活がつまらない、結婚したいが困難であり淫らな生活もいやだから尼僧生活を選ぶ』といふほどの意味では、よし尼僧生活に入つても又故障が起り易いことは明白です。といふのは尼僧になるといつても、さうたやすくなれません、宗派によつてもちがひますが、尼僧の學校に入つて二年か三年なりの修業をするか、尼寺に弟子入りしておなじく業を積まねばなりません、しかもその衣食の費用は昔とちがつて、今日では各自が相當の負担をしなければなりません。おそらく、あなたとしては尼僧そのものよりも、せめて尼僧のやうな『人から煩はされない靜かな心の世界』を望むといふのでせうが、然し、どうしてもさういふ生活を望んで止まないならば貴女は東京に伯母があるといはれましたが一度相談して、『濟生會婦人相談所』を訪はれゝばくわしく教へて下さいます

お父さんと僕 どつちが呑氣か

文畫　勅使河原進


①
オ一課!!
②
ホントニかんしんだコト
勉強しとるかんしんだネ
③
お菓子をもつて行つてあげませう
靜かになつたゾ
④
まあ!!!
グウグウ

不滅のシンボル
群司次郎正作
大野逸子畫

不滅のシンボル

……第百二十三回……

闘争［二］

と、靜かな口調で言ひ出したのは、瀬野である。

『何んと言つたつて活氣を纏めないことにはね、會社にかけ合ふにしたつて……。もう今日まで三週間近くもかうやつてストライキを續行しとるのに、まだ會社の奴が折れて來んのだから、こゝはよつぽど大事を取つてやらんと……それにまた、罷業が長引くと、内輪もめが起らんとも限らんからな。一致團結しとる以上はさういふことは、萬が一にもあるまいと思ふがな。若しやぢや、若し、萬一、仲間のうちに變心するやうな人でも出ると、それこそ大變だからなあ。』

しみじみとした口調でさう言ふと、さすがに、誰もこれに對して口をはさむ者はなかつた。一座はムツツリと押し默つて、たゞ考へ深さうな顔をしてゐる者ばかりだつた。

『まあしかし、ワイワイ騒いで居つたところで仕方がないから』

と、吉田は分別顔に

『そこで、俺はかう思ふんぢやがな。この十ケ條の要求條件中、日給増手當と、退職手當の點だけは、最初の豫定通り一歩を退かぬことにして、あとはどうぢやらう？會社といゝやうに話し合つちやア？』

『詰り、妥協するのぢやな？』

さう言つたのは、山中である。

『まあ、妥協といやアなんぢやが、そこをその都合よくな。』

まあ、それぢやア、男工さんたちの方がよつぽど腕が弱いわね」

と、この時、お秀が男たちを嘲るやうに、苦笑しながら言つた。

『弱いのぢやない。考へ深くやるのさ。』

瀬野が辯解するやうに言ふ。

『女工さんたちだつて、考へ深くやつてをりますよ。あなたのやうなことを言はれると、丁度私たち女工たちは何も考へなしに、無分別なことでもして居るやうに思はれますね？』

お秀は少しムツとしたか、瀬野の方をきつと見て、彼をよじ詰るやうな口調でさう言ふのだつた。

『いや、さういふ譯ぢやないよ。さう解られては困るよ。僕は何も女工達が無分別な行動をとつて居るとは思はんさ。僕の云ひ方がよくなかつた訂正するが……』

『そんならよござんすよ。私たちはね、みんな眞劍にやつて居るのですから、分別とか思慮とかいふやうなものを、何もあなた達男達の專賣にせんやうにおねがひしますよ……それでは、私はこれで失禮します。何れまた後で來ます。吉田さん、女たちに何か用はありませんか？』

『あア、今のところ、ちよつと……。』

『ちや、ご用がありましたら、いつでも呼んで下さい。』

と、お秀は起つて階下へ下りかけたが、不圖思ひ出したやうに立止まつて、振り返り、

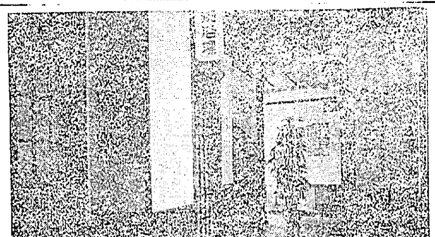
『あゝさうさう、吉田さん。組合宿所が變るとかいふ話ですが、此家は今晩限りですか。』

（夜間診療）
胃腸性病
内科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）

電話開通
五五五番
銅鐵 製紙 原料商　山田商店
本店　山田文一商店
電話二六二番

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話五八番

鐵道指定旅館
割烹　小瀧
電話小名濱一〇三番



開業お知らせ
〝御料理〟
金みよし
平市仲田町
電話四一九番

お醤油はヤマフル
醤油 味噌
たひら正宗
鰹節 食料品
醸造元
鹽屋
福島縣平市
明治生命磐城代理店
山崎與三郎
電話一〇 二七番

上原家政婦會
平市紺屋町一
會主産婆　上原通子
電話二二番
産婆看護婦有資格者ニシテ最モ熟練ナル者チ一般家政婦トシテ派出致シマス

……出前迅速
御料理
〝むぎとろ〟
是非！御試食下さい
平市田町紅小路
さつき
電話四八八番

クレオソート　壹圓六拾錢
精製コールタール　壹圓五拾錢
鐵材 金物 工具
平市仲町通り
山田文一商店
電話二六二番

美味！
芳醇！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

三井タクシー
平二　電話六八五番

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話八六番

御婚禮御着附
パーマネントウエーブ
和洋結髪
オゾン美顔術
御染髪洗毛
御爪美術
平市驛前
水野化粧院
電話六七八營業所
五二五自宅

看護婦
見習看護婦 數名募集
（希望者御來談下さい）
婦人科
五十嵐醫院
平市新川町
電話三六九番

内科 外科 一般
金成醫院
金成忠義
平市鍛冶町
電話三五八番